

# 日本医学教育学会の活動状況\*1

牛場大蔵\*2

## はじめに

日本医学教育学会 (Japan Society for Medical Education) は 1994 年 (平成 6 年) に創立第 25 周年を迎えた。

今回の白書では学会第 10 期 (1991~93 年) および第 11 期の始まりまでの活動状況を、項目別に記す。ただし、第 11 期はごく初期であるので、その後段にまとめて述べることにする。

## 1. 役員と委員会など

第 10 期の役員構成は下の通りである。

会長：牛場大蔵

副会長：中川米造，鈴木淳一

監事：堀原一，尾島昭次

運営委員：阿部正和，福井次矢，福間誠之，浜田宏，橋本信也，畑尾正彦，日野原重明，平野寛，細田瑛一，石田清，岩崎榮，紀伊國敏三，菊地博，西園昌久，高久史磨，館正和，田中勸，徳永力雄，植村研一，吉岡守正

幹事：斎藤宣彦

役員の仕事担当としては、庶務：中川，会計：鈴木，教育機関連絡：西園をそれぞれ委嘱した。常置委員会の名称，委員長および副委員長（カッコ内）は下の通りである。

会則検討委員会：中川

編集委員会：鈴木（中川）

選抜検討委員会：橋本（桜井 勇）

卒前教育委員会：田中（細田）

国試検討委員会：堀（細田）

卒後臨床教育委員会：福間（岩崎）

生涯教育委員会：平野（菊地，小林建一）

教育技法委員会：畑尾（橋本）

国際関係委員会：尾島（加我君孝）

ワーキンググループとしては、行動科学（主任：中川）が設けられた。

なお、上記常置委員会およびワーキンググループの構成委員名は、機関誌『医学教育』22 巻 4 号 (1991)，252~253 ページに記されている。

運営委員会は毎年 2 月，4 月，6 月，年次大会時（7 月），9 月および 12 月の計 6 回開催され，その議事録は『医学教育』に掲載されている。

常置委員会，ワーキンググループはそれぞれ年 4~6 回ほど会合を持ち，特別のワークショップ，討議会などをも開催した。ただし，会則検討委員会は必要時のみ，編集委員会は年 6 回の運営委員会に引続いて行われた。

## 2. 会員の状況

1990 年以降の会員数推移は下表の通りである。

年	1990	1991	1992	1993	1994
個人会員 (学生)	947 (18)	971 (21)	924 (20)	974 (21)	951 (17)
機関会員	112	112	108	108	107
名誉会員	4	5	5	4	4
賛助会員	14	24	23	22	21

(注) 1990~93年間は各年 7 月現在 (大会時)，1994年は 5 月現在。  
学生数は個人会員数の内数。

\*1 Activities of Japan Society for Medical Education  
キーワード：日本医学教育学会，常置委員会，年次大会

\*2 Daizo USHIBA 慶應義塾大学名誉教授，前日本医学教育学会会長

### 3. 年次大会

前回の「白書」1990年版では第21回大会(1989年)までが記載されているので、今回はそれ以後の大会を報告する。

1990年の第22回大会は、7月26、27日の両日、東京都高輪プリンスホテルにおいて、聖マリアンナ医科大学前学長藤井正道大会長、同大学教授浜田 宏実行委員長の下に行われた。基調テーマは“国際化時代へ向けての医学教育”であり、これは14名の口演者からなるパネルディスカッションの題名ともなった。特別講演はWHO事務総長中嶋 宏氏による“国際的視野からみた医学教育”であった。このほか指定演題を4群(計29題)とし、一般演題は5題ずつ4群(計20題)に分けられた。応募が多数であって、以上のほかポスターセッションが生まれ、多数の参加者(計363名、うち学生9名)によって活発な討議がもたれた。

1991年の第23回大会は7月16、17の両日、大阪国際交流センターにおいて、関西医科大学学長塚原 勇大会長、同大学教授徳永力雄実行委員長の下に行われた。特別講演は柳田邦男氏の“職業人としての医師”，パネルディスカッションは“卒前臨床実習の改善”と“医学系大学院はいかにあるべきか”の2題で16名の口演者があった。そのほか、ラウンドテーブルディスカッション(“学生・若手医師からみた現在の医学教育の問題点”)，ワークショップ(“医学教育を活性化させるには?”)がもたれ、要望演題5群(31題，中ポスター4題)，一般演題5群(32題，中ポスター22題)が組まれた。なお，“実態調査から窺える学生の学びの姿勢”という特別報告が行われ、参加者は計350名を数えた。

1992年の第24回大会は、7月16、17の両日、東京都アルカディア市ヶ谷において、日本医科大学学長菊地吾郎大会長、同大学教授岩崎 榮実行委員長の下に行われた。メインテーマを“医学・医療の質改善と医学教育”とし、特別講演は米国マサチューセッツ医科大学 Dr. Paula Z. Stillman 女史による“Standardized Patients による医学生教育”であった。シンポジウムは“診療録に関する教育”，“総合診療の導入と課題”の2題のほか、とくに指定シンポジウムとして“大学設置基

準の改正をめぐる”がもたれた。パネルディスカッションも2題(“医学・医療の質改善のための工夫”と“歯学領域の医学教育への導入”)が行われた。口演形式による一般演題は要望演題“教育方法の工夫と改善”の9題のみで、ほかのすべての要望演題6群と一般演題7群はポスター形式によって発表された。参加者は約400名(中学生20名)であった。

1993年の第25回大会は7月15、16の両日、滋賀医科大学において、前滋賀医科大学学長佐野晴洋大会長、同大学教授細田四郎実行委員長の下に行われた。基調テーマは“変革期に直面する医学教育”とされ、特別講演は学会第25回を記念して牛場大蔵会長の“日本医学教育学会25年間の歩み”であった。基調テーマに関連して、招聘講演の“ミシガン大学医学部の学部および大学院教育の現状と改革”(米国ミシガン大学人類遺伝学教授倉地幸徳氏)，および2題の教育講演，“教育評価”(大阪大学人間科学部教授梶田叡一氏)と“医療経済学からみた医学教育”(京都大学経済学部教授西村周三氏)が目新しいものであった。シンポジウムは6演者による“ターミナルケアの教育”，パネルディスカッションは8演者による“医学教育の自己評価”であり、このほか“倫理教育のゴール”と題するアフターディナーセッションが設けられた。要望演題(10群)と一般演題(2群)は、ポスター展示と口演とを組み合わせた新しい併用形式で行われた。参加者は約250名であった。

### 4. 各委員会・ワーキンググループの活動

#### 1) 会則検討委員会

とくに変更のための討議はなかった。

#### 2) 編集委員会

機関誌『医学教育』については本白書の別章で述べられているので、ここでは触れない。

委員会としては1991年から正式にレフェリー制を採用し、投稿原稿は2名のレフェリーによる査読を経ることになった。3年間の投稿論文数79編、不採用は5編であった。

#### 3) 選抜検討委員会

入学者選抜に関する討議会が過去に引きつづいて全国的規模で開催されたが、1991年以降は下のようである。

第10回は1991年8月30日、“選抜方法の教育的効果”のテーマで慈恵医大で開催、51大学から69名の参加があり、学科試験、小論文、面接試験、推薦入学、skills analysis、分離分割方式が項目として取り上げられた。第11回は1992年8月29日、“推薦入学”と“面接・小論文”を主題として慈恵医大で開催され、51大学から80名の参加者があった。第12回は1993年8月30日、“適性試験による選抜”をテーマとして慈恵医大で開催され、わが国における skills analysis に関する研究報告（西園昌久）に続いて、同問題についての事例報告が3演者によってなされた。

以上の討議会の成果は全国医学校で広く利用され、諸所で選抜方法の再検討や改善が行われつつある。（なお、第10回および第11回の討議会記事は『医学教育』24巻4号、1993に掲載されている。）

本委員会ではさらに、面接・小論文に関するアンケート調査を全国的に行い、74大学から回答（回答率92.5%）を得た。その分析結果を現在作成中で、『医学教育』に投稿予定である。

#### 4) 卒前教育委員会

ターミナルケア教育の実態調査を、所属各委員の大学7校139演者に対してアンケート調査を行い、その結果の一部を第25回大会のシンポジウムで発表した。

大学設置基準の一部改正についての特別研究会を1992年4月4日に行い、その内容を『医学教育』23巻4号に特集として発表した。さらに各大学の自己点検・評価について委員会内の意見交換を行った。『医学教育』24巻6号の特集（医学教育における自己点検・評価について）は、本委員会の企画によるものである。

なお、国家試験の医学教育に対する影響についてのアンケート調査を1993年4月に行い、その結果の一部を第25回大会にて発表した。

#### 5) 国試検討委員会

医師国家試験の事後評価として、全問題についての必要度と難易度の判定と、それによる合格水準の算出法を取り上げ（修正イーベル法）、その実施を大学医学部教員・臨床研修病院指導医約20名および各回受験者約40名に依頼している。この方法を第10期も毎年継続して行い、その結果は厚生省の試験委員会などへ有意義な影響を及ぼし

た。

出題基準（ガイドライン）の改正へ提言を行い、1993年に臨床全科目の統合が果される基礎を与えた。試験方法および試験制度の改善のための検討も繰り返し討議された。

なお、『医学教育』24巻1号の特集（医師国家試験の改善をめぐる）を企画した。

#### 6) 卒後臨床教育委員会

卒後臨床研修目標については本学会および諸所より提案があるが、本委員会はその目標達成のための方略について討議を重ねた。これに関し、1993年には教育技法委員会と合同会議を2回開催、具体案を作成した。

1991年には卒後臨床研修の実態に関し、全国医学校の附属病院および分院122、全国研修指定病院および病院群243に対して広範なアンケート調査を実施し、それぞれ48.3%、56.4%の回答率を得た。その結果は上記の目標達成のための方略作成に参考とされた。

#### 7) 生涯教育委員会

従来の本委員会で作成された“医師の生涯教育の目標”を、とくに開業医師の観点から見直すことを取り上げ、計9回の委員会がもたれた。開業医師にとって専門領域の知識や技能の更新に加えて、保健・医療・福祉の基本となる事項についての配慮が期待されるものとして討議が重ねられ、目標達成のための資源や方略が具体的に提案された。それらの結果は目標と、行動評価のチェックリストを『医学教育』に発表予定である。

#### 8) 教育技法委員会

前期の本委員会から引き続いて『医学教育技法マニュアル』を編集完了し、1993年2月に出版（篠原出版会）した。

ついで臨床教育の実践に役立つような『臨床教育マニュアル』を企画、1994年12月に出版した。これは臨床教育の基本的なあり方、教員のあり方とかかわり方、情意領域・態度学習の仕方、問題解決能力修得のための方略としてのシミュレーションやコンピュータの活用などを主な内容としている。

卒後臨床研修目標達成のための方略作成のため、卒後臨床教育委員会と合同会議を開催して具体案を作成した。

## 9) 国際関係委員会

第22回大会のパネルディスカッションに関連した『医学教育』の特集(国際化時代へ向けての医学教育)を企画、発表した(25巻, 2, 3号)。

医学外国語小委員会(委員長加我君孝)を設け(1992年6月), 医科大学における医学生のための医学英語に関するアンケート調査を実施した(27調査項目; 回答率81%)。その結果は上記『医学教育』の特集に報告されたが, 今後の活動として医学英語のモデル的カリキュラムの提案が, 建設的な方向と考えられた。

なお, 本学会のカリキュラム委員会の第58回(1993年5月)と第59回(1993年7月)を, 編集委員会と共催した(カリキュラム委員会全体の詳細は, 本白書23章, 雑誌『医学教育』に述べられている)。

## 10) ワーキンググループ・行動科学

倫理教育法の開発と模擬患者による学習法の2つの課題を取り上げて討議した。

倫理教育法に関しては, 個別的症例の検討に倫理問題を併せ行うのが最も有効との結論に達し, モデル的に臨床症例検討会を実施した。模擬患者による学習法に関しては, 医療問題に関心ある市民グループと接触し, 準備訓練を行って, 医学生および研修医の患者面接学習に協力を依頼, ある程度の効果を得た。

## 5. 学会の協力事業

1974年以来毎年行われている“医学教育者のためのワークショップ”は厚生・文部両省主催, 本学会と医学教育振興財団協力の下に行われているが, 本学会はつねにディレクターおよび講師を派遣して, 実質上の運営を行ってきた。1994年には20周年を迎える。

本ワークショップの内容については本白書の別省で詳述されるので省略するが, 毎年の成果は全国的に医学教育改善の実施について, 大きな影響をもたらしつつある。多くの医学校および研修指定病院において, 局地的に同様ワークショップがもたれている。

## 6. 第11期の初期

前言で述べた通り, 本学会は1994年より3年

間の第11期を迎え, 1993年末に役員改選が行われた。第11期(1994~96年)の役員構成は下の通りである。

会長: 鈴木淳一

副会長: 田中 勳, 橋本信也

監事: 尾島昭次, 堀 原一

運営委員: 福井次矢, 原田研介, 支倉逸人, 畑尾正彦, 日野原重明, 細田瑛一, 今中孝信, 石田 清, 岩崎 榮, 角家 暁, 紀伊國献三, 菊地 博, 西園昌久, 斎藤彦彦, 桜井 勇, 高久史麿, 徳永力雄, 津田 司, 植村研一, 吉岡守正

幹事: 小寺一興

(なお, 福間誠之, 中川米造, 牛場大蔵の3氏は役員を辞退された。)

役員の業務担当としては, 庶務: 田中, 会計: 橋本, 会則検討: 田中, 機関会員連絡: 西園, 医学教育ワークショップ: 尾島, 白書: 斎藤をそれぞれ委嘱した。

常置委員会の名称, 委員長および副委員長(カッコ内):

編集: 尾島(畑尾), 選抜: 桜井(平野光昭), 卒前教育: 徳永(桜井), 国試検討: 細田(植村), 卒後教育: 畑尾(戸倉康之), 生涯教育: 橋本(菊地), 国際関係: 紀伊國(尾島)。

ワーキンググループの名称, 主任および副主任(カッコ内):

大学院・認定医・専門医: 高久(神津忠彦), 機関評価: 岩崎(原田), 外国語教育: 植村(羽白 清), 発表技法: 斎藤(宮本尚彦), 総合診療: 福井(今中)。

特別委員会(ad hoc)の名称, 委員長および副委員長(カッコ内):

会員倍増: 橋本(斎藤), 日本医学会分科会に登録: 田中(支倉), 学会創立25周年記念行事: 鈴木(石田), 医学教育者のためのワークショップ20周年記念行事: 館 正和(岩崎)。

以上のように第11期では引き続いての常置委員会に加えて, ワーキンググループの別項目, さらに新たに特別委員会が設けられている。